

## 平成24年度 第1回刈谷市行政評価委員会 議事録

- 日 時 平成24年4月18日（水）午後14時00分～16時00分
- 場 所 刈谷市役所 701会議室
- 出席者 昇秀樹、吉本理沙、加藤時彦、近藤克麿、浅井裕章、天野櫻子  
竹中良則市長、鈴木直樹副市長
- 事務局 企画財政部長、企画財政部企画政策課長 他

### 1 議題

- (1) 平成24年度外部評価実施方針について
- (2) 平成24年度行政評価委員会の進め方について

### 2 会議資料

資料1-1；平成24年度 外部評価対象事業選定方針（案）

資料1-2；平成24年度 外部評価対象事業選定方針（案）に基づく20施策の選定に対する事務局素案

資料2；平成24年度 行政評価委員会の進め方について

資料3；事務事業評価シート例

事前配布資料 第7次総合計画

### 3 市長あいさつ

市 長 こんにちは。外は桜の季節も終わり、新緑まばゆい、さわやかな季節となってきました。平成24年度が始まり、今日は24年度第1回目の委員会ということでお集まりいただき、ありがとうございます。

本委員会には、昨年度も大変お世話になりました。8月の3、4日にかけては終日精力的に20事業の評価をいただきました。積極的に、発展的にいろいろなご意見をいただき、さまざまな面で初めての経験でありましたが、改善の気運が出てきたと思います。

私が常々職員の中でお話するのは、4C1Sを念頭に置いて仕事を進めてほしいということです。4Cというのは、クリーンのC（公務員は常にクリーンでいてほしい）、シチズンのC（市民の目線で仕事をしてほしい）、チャレンジのC（常にチャレンジ精神を持って仕事に立ち向か

ってほしい)、コストのC(常にコスト意識を忘れないでほしい)。その中で、コストを細かく分析しながら、ムダ、ムラ、ムリの排除をし、市民サービスを行ってほしい。そして1つのSはスピードのS(スピード感をもってほしい)です。どうしても公務員の感覚でいうと、年に4回の議会が開かれ、予算や議案の上程は議会が中心になって動くので、3か月サイクルでしか物事を考えない、あるいは1年単位の予算計上という感覚になってしまうので、スピード感がないと市民に思われてしまいます。行政に何かお願いしても実現は1年先という感覚になってしまうのです。そんな風に思われたいような仕事をしてほしいと思っています。必要ならば、議長にお願いして臨時に議会を開催するようなことまで言いながら、職員の意識改革をお願いしているところです。そんな中、評価委員会の皆さんのご提言をこれからの行政運営の糧にしていきたいと思っています。

24年度の当初予算を計上し執行に入っています。その中で、昨年のいただきましたご意見も反映して進めていきたいと思っています。去年は特に、市の一番の基本方針である第7次総合計画をスタートした年であり、それも受けながら、毎年度の予算に1年ずつ反映していくようなことで事業を進めてまいりたいと思っています。今年の4月からは、3月の議会で承認をいただいたのですが、昨年協定を結んだ知立市、高浜市、東浦町の3市1町で進めている定住自立圏構想の共生ビジョンがスタートしました。3市1町が一緒になって、病診連携、公共バスの相互乗り入れ、観光のPR、公共施設の相互利用等を行ってまいりたいと考えております。

そんな中で、市民の今一番の関心事は、昨年の震災の影響で防災に関することです。昨年1年間、22地区の自治会の会長さんが、自分たちがあの場にいたらどういう行動をとるか、どうやって市民を守るか等を勉強していただきました。避難民をどうやって救うのか等のマニュアルづくりも進めています。個人情報保護法の兼ね合いもあり難しいところもありますが、随時進めていってもらおうと思っています。先日、内閣府の有識者会議から南海トラフ巨大地震の新たな地震想定が出てきました。太平洋ベルト地帯の被害想定が見直され、特にこのあたりの外海は大幅に見直され、津波の高さは2倍以上となり、これに対応するのは大

変なことです。衣浦湾の内海を見てみるとマグニチュード9.0で想定されていますが、碧南市では東海東南海地震で津波の予想が2.9mだったのが今回見直されて3.4mということで50センチ上がり、高浜市では2.6mが3.1mに見直されました。刈谷市も2.2mから2.5mと言われていたので、2.5から2.7mぐらいを想定すればいいのではないかと思います。国から細かいデータが届いていないので、細かいデータが届いてから改めて地震、津波のハザードマップ等を作っていかなければなりません。

お話は変わりました、年度末から年度初めの3月31日から4月4日にかけて、JAXAのはやぶさの帰還カプセルの巡回展示を最後の開催地として行いました。5日間で15,632人が来場し、目標を達成することができました。中でもJAXAが全国巡回で、はやぶさの8823にちなんだ数字をどこかで到達したいと思っていたものが、幸い4月1日の朝に刈谷市で88万2300人目の方を迎える事が出来ました。記念すべき日を刈谷で迎えることができ本当に良かったと思います。川口淳一郎先生の講演や帰還カプセルの展示、映像鑑賞、ものづくりコーナー、体験コーナー等、5部門、21コーナーがあり、多彩な内容で子どもからお年寄りが楽しめ、多くの反響をいただきました。本物のカプセルを刈谷で見られて本当によかった、刈谷でものづくりに触れられてうれしかった、日本の科学技術に感動した等、ありがたいお話を沢山いただきました。このイベントには、刈谷おもちゃ病院の方々、愛教大の皆さん、刈谷工業高校の生徒さん、少年発明クラブの皆さん、企業からはフォービックスさんがはやぶさの模型を沢山作ってくださりました。このようなボランティアの方々の協力があったことは、これがまさに共存・協働のまちづくりの成果と思います。

社会経済情勢は復調の兆しがあるとはいえ、なかなか回復という明るい話はありません。消費は上向いているというが、東日本大震災の被災地はまだまだ復興していませんし、欧州では金融不安、資源、エネルギーの高値止まり、為替動向等、なかなか予断を許さない厳しい状況が続くのではないかと考えております。過日、経団連の22世紀政策研究所が2050年の世界50カ国の経済予測を発表されました。このまま日本が何もやらず、財政の建て直しをしなければ、2050年にはドイツ、

フランス、ブラジル、ロシア、インドに抜かれてGDPでは世界で9番目ぐらいになってしまうのではないかという予測を出されました。そんな警鐘の中で出来るだけ早く新たな成長エンジン、成長のビジョンを開発してスピード感を持ってやってもらいたいと思っておりますし、ものづくりの中小企業に対して支援できたらいいと思いい準備をしているところです。

いろいろな本市を取り巻く課題がたくさんあります。委員の皆さんにはそれぞれのお立場から忌憚のないいろいろな角度からのご意見を頂戴する事をお願いして、委員会がより良い行政運営の礎となりますよう本年もよろしくお願ひします。

#### 4 議事

- 出欠席の確認
- 会議資料の確認
- 情報公開の確認

##### (1) 平成24年度外部評価実施方針について

(事務局より、資料1-1の説明)

委員 長 (資料3を参考に) 来年度の施策評価について、総合計画の施策体系を対象とするということですが、「道路・交通」などから成り立つ基本施策(30施策)が対象なのか、次の「公共交通の充実」などから成り立つ施策の内容の単位が対象なのかどちらですか。

事務局 まだはっきりと決まったわけではないですが、例えば総合計画書の50ページの中にあるめざす姿として各目標値はあくまでも30の基本施策を単位とし、アンケート結果を基に進行管理するという考え方です。

委員 長 ということは基本施策を中心としていくということか。

事務局 基本施策を中心に考え、施策の内容についても検証します。

委員 長 基本施策が5つの小さい施策(施策の内容)から成り立っています。小さい施策を単位とするのではなく、基本施策と呼んでいるものを来年度の施策評価の中心に据えたい。ものによっては小さい施策を対象にするものもあるかもしれないが、基本的には数値目標が挙げられている基本施策の方を対象にするということですね。

委員長 資料1-1の対象外事業で気になるのが①と④です。わからないでもないが、特に懸案となるような建設中の公共事業や特別会計はないという理解でいいですか。例えば銚子市では市立市民病院を閉鎖するかどうか、やるならどうやるかが大問題となって、市長選の最大の争点となりました。銚子市でこのような対象外基準を作るとなったら何をやっているのかという話になります。北海道でも同様な事例があります。そういう事業は刈谷市には特に聞いていませんが、ないですよねという確認です。あつたら難しくても対象として検討しないといけません。今進んでいる事業で、住民との関係で賛否両論があるもの、し尿処理施設とかごみ焼却場といった迷惑施設のような問題になっているもので一昨年位に着工していて、まだやめるべきだと反対運動があるものなどはないですね。

事務局 ①についてはありません。④は、3月に国民健康保険の税率の改正をしました。併せて介護保険も3年に1回の改正がありました。介護保険は法令の中で繰り出し率が決まっているので一般的には問題ありませんが、国保は本来なら法令内の繰り入れが決まっていますが、健康保険組合が赤字で法定外の繰り入れをしています。値上げについて、税率改正をするのに法廷外の繰り入れをどのくらい入れていくかというような議論となりました。一般会計の繰り出しの基準が国保の場合難しいところがあります。

委員長 行政評価の外部評価になじむのでしょうか、なじまないのでしょうか。  
事務局 国保の運営協議会に税率改正を提案して、いろんなご意見をいただき、意見の中で賛同をいただきました。

委員長 国保の繰り入れはどこでもある話です。一般会計の屋台骨を揺るがすようなら問題ですが、そこまでではないのなら評価として挙げなくてもよいと思います。しかし、「特別会計との関係があるから」というのは理由としてはそぐわないので、選定基準の対象外の理由としては④はない方がいいと思います。結果として評価対象にはしませんが、繰出金だから対象にしないというのはやめておきましょう。

事務局 ④を削除して、⑤を④に修正します。

(事務局より、資料1-2の説明)

委員 去年との違いは、去年は同じ施策で重複した項目があったが、今回はない、そして基本的に去年やっていないところをやるということですか。

事務局 去年は施策ごとを意識していなかったので偏りがあり、教育が4事業も占めてしまったということがあった。今回は総合計画の施策ごとにはばらして、出来るだけ広くいろいろな種類の事業を評価していただきたい。

委員 30施策を割合的にばらしているということか。

委員長 なるべく重複していないのは、研修効果を狙ったものか。

委員 そう考えられます。もうひとつは去年やったのがどう変わったのか。PDCAを念頭にフォローアップを図るという考え方もある。

事務局 去年も20事業外部評価を受けたが、全体の課の中でも外部評価を受けている課、受けていない課があった。全庁的に、外部評価に対する考え方で、それに対してどう受け止めてどう改善していくかというのは、一度は体験してみないと見ているだけではわからない部分もあるので、できるだけ多くの職員に体験してもらい実感してほしいと思っています。例えば、昨年度評価を受けた情報システム課などはシステムを導入する際、業者とのやり取りや仕様までつき詰めて発注するなど、表立ってはいないがその効果が出ている部署です。いろいろな課に直接厳しい意見を言うていただくことが、改善に繋がると思われます。

委員長 例えば、新規に18事業やって、2事業だけはフォローアップにするといったようなこともPDCAを考えれば、案外効果があるのではないのでしょうか。

事務局 検討します。

委員長 基本は広く研修でも良いが、去年やったことでどう考え方を変わったのか、変えていないのかをお互いに知っておくのは、PDCAサイクルでは良いのではないのでしょうか。少しだけ入れると良いと思います。

事務局 わかりました。

委員長 こういう方針でやってもらいましょう。

(2) 平成24年度行政評価委員会の進め方について

(事務局より、資料2の説明)

委員長 去年も公表はしたのですか。

事務局 公表しています。事業は違うがやり方は一緒になります。  
委員長 今年も朝から夕方まで2日間ハードだが、よろしくをお願いします。

(3) その他

事務局 今後の予定について。例えば第2回と第4回の議事内容のところに施策評価制度の文言が出てきます。これについては25年度の施策評価の実施に向けて今年度中に事務局を中心として制度の構築を進めていきたいと考えています。この過程において委員の意見をいただく事があると思いますのでお願いします。

委員長 去年、今年は公共バス運行管理事業という具体的な事業について議論しました。来年度はもう一段上の基本施策、道路交通環境を良くしていくにはどうしていったらいいのかを、たくさんの事務事業全体から視点を高くとって、マクロの観点から道路交通環境を良くするにはどういうことに留意しなければならないのかを考えていく評価制度となります。より高い視点からの評価であるので、評価の仕方が抽象的になり難しくなります。事務事業評価だけでやっている、これは実際アメリカでやっていることですが、アメリカで事務事業評価をやっている農林水産分野は葉タバコを一生懸命生産し、葉タバコをどうやって効率的に生産するかを評価するが、健康サイドではタバコは出来るだけ吸わないようにとじていて相互に矛盾することを同じ州政府でやっているのはおかしいだろうと高見にたって議論しています。評価するのはなかなか難しいですが、そこを工夫してやっていく。対立する場合はわかりやすいが、対立しないまでも、もうちょっとベクトルを揃えたらうまくいくかもしれない。それを具体的にどういう風に評価するかを考えることが施策評価につながります。

今日はこれで終了します。お疲れ様でした。